

キャリアパス委員会の活動

生命科学領域の中で「分子生物学」は比較的新しい分野ですが、その発展は目覚ましく、社会にも非常に貢献しています。一方、分子生物学会に属する若手研究者がおかれる状況は男女共に、今なお、決して満足のものではないことも周知の事実です。

第18期（2013年）から新しく始まった「キャリアパス委員会」では、若手研究者を取り巻く数多くの問題を、男女共に提起・分析し、軽減そして解消することを目指します。

2015年の委員会活動

●年会での主催企画：

・BMB2015両学会共同企画

『研究者のライフイベントを考える

―目指すべき制度改正と環境改善―（12月1日）

神戸国際会議場3階 国際会議室

・キャリアパス委員会主催ランチョンセミナー2015

『本当のPIになるために』（12月2日）

神戸国際会議場3階 国際会議室

●キャリアパス委員による対談（会報掲載）

●年会の演題投稿者における属性調査

●年会託児室利用者へのアンケート実施

●ポストクアンケート実施

●ライフイベントについてのアンケート実施

●男女共同参画学協会連絡会に参画

●「女子中高生夏の学校～科学・技術・人との出会い～」

（主催：国立女性教育会館）企画・実験・実習等参加協力

キャリアパス対談

第7回



大谷 直子

×

中川 真一



対談は第1回から
学会HPでご覧いただけます。

第8回



胡桃坂 仁志

×

須藤 裕子



第19期委員 (2015-16)

小林 武彦
（委員長）

石井 優

井関 祥子

岩崎 渉

大谷 直子

小野 弥子

胡桃坂仁志

須藤 裕子

中川 真一

東山 哲也

柳田 素子

若手教育活動とより働きやすい環境を目指して

2015	ポストクアンケート実施 ライフイベントについてのアンケート実施
2014	報告：分子生物学会会員による回答結果の分析「第3回日本分子生物学会男女共同参画実態調査」 要望「男女共同参画のさらなる推進を目指して～女性研究者リーダーシップ養成と充実したライフイベント環境整備に関する要望～」：文部科学省へ
2013	男女共同参画委員会は若手教育問題WGと共に、活動をキャリアパス委員会へ引継ぐ
2009	年会における演題投稿者等の属性調査（女性比率調査）開始（以降毎回実施） 報告：分子生物学会会員による回答結果の分析「バイオ系専門職における男女共同参画実態の大規模調査分析」
2007	要望「日本学術振興会・特別研究員-RPD制度の更なる拡充、推移と、および弾力的運用等に関する要望」： 日本学術振興会へ 若手教育問題WG発足 第1回若手教育シンポジウムを開催（以降毎回開催）
2006	男女共同参画WG→委員会へ昇格 RPD制度に関するwebアンケート
2005	提言「ライフサイエンス分野における男女共同参画の推進」・ 「科学者・技術者の人材のさらなる活用を図る男女共同参画制度の整備について」： 内閣府、文部科学省、総合科学技術会議事務局へ 報告「科学者-技術者の人材のさらなる活用を図る男女共同参画制度の整備について-理工学系の現状に基づく提言-」：日本学術会議へ
2004	WEB公聴会「科学技術基本計画」および「男女共同参画基本計画」改訂作業への意見集約 提言「子育て支援型研究員制度」
2002	男女共同参画WG発足 年会における第1回男女共同参画WSを開催（以降毎回開催）
2001	年会保育室設置WGスタート 年会保育室設置（以降毎回設置）

